

0-7 医療施設の実態・課題

■ 施設概要

市民病院は、447 床の病床数を保有する市内唯一の公的病院で、東京都二次救急指定病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターの指定を受け、地域から求められている二次救急、救急医療、周産期医療を提供しています。隣接する旧看護専門学校は、現在は改装して職員用の 24 時間保育施設及び委託先職員等の更衣室として活用しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		市民病院	47,499	1999	
町田中心		旧町田市立看護専門学校	1,267	1973	院内保育施設

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 町田市中心部にあたる町田地区に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 旧町田市看護専門学校は築年数が経過している。
- 〔機能〕 ・ 市民病院は、447 床の病床数を保有する市内唯一の公的病院で、二次救急、救急医療、周産期医療を提供している。
- ・ 旧看護専門学校は、現在は改装して職員用の 24 時間保育施設及び委託先職員等の更衣室として活用している。
- 〔利用〕 ・ 2015 年の入院患者延数は 124,391 人（1 日平均 339.9 人）、外来患者延数は 310,379 人（1 日平均 1277.3 人）、稼働病床数は 163,482 床（病床利用率 76.1%）であり、多くの利用がある。
- 〔運営〕 ・ 市の直営だが、地方公営企業法全部適用により、病院事業管理者の元、運営している。
- 〔コスト〕 ・ 市民病院 1 年間の運営費は約 142 億円であり、町田市の一般会計からは約 11 億円が繰入金として支出されている。（2015 年度）

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 設置における法的な義務付けはないが、採算性の面から民間医療機関では提供困難な医療を提供し、地域において必要な医療体制の確保が行政に求められる。

設置目的との整合性

- ・ 急性期医療を担う地域の中核病院として、二次医療、救急医療、高度医療、周産期医療、小児医療を地域に確保している点で整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 2015 年の入院患者延数は 124,391 人（1 日平均 339.9 人）、外来患者延数は 310,379 人（1 日平均 1277.3 人）、稼働病床数は 163,482 床（病床利用率 76.1%）であり、多くの利用がある。

施設の代替性

- ・ 市内に高度急性期病床を保有する民間病院はない。

〔現状・課題のまとめ〕

市民病院は採算性の面から民間医療機関では提供困難な医療を提供しています。特に高度急性期病床を保有する民間病院は市内になく、地域医療の確保が求められています。また、市民病院は地方公営企業法全部適用により、病院事業管理者の元、運営され、事業費の一部を市の一般会計から繰り入れています。良好な医療環境の維持のため、適切な財政運営による施設管理を行っていくことが課題です。

▷ 0-7 医療施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

長

PP

市民の生命を守るための施設として、効率的かつ適切に維持していく。